

## 平成30年度 佐賀市立北山東部小学校 学校評価結果

| 1 学校教育目標   |
|--|
| <p>郷土を愛し、心豊かで心身共にたくましく、生き生きと学ぶ東部っ子の育成</p> <p>① 郷土を愛する子ども：豊かな自然・温かい地域や人・確かな伝統を大切に子ども</p> <p>② 心豊かな子ども：豊かな感性を持ち、自他のよさを知り、大切にするとともに、思いやりの心を持って人に接する子ども</p> <p>③ 心身共にたくましい子ども：武道の精神を学び、礼節を重んじ、自分に負けない子ども</p> <p>④ 生き生きと学ぶ子ども：めあてを持って主体的に学習し、自分の考えを進んで発表する子ども</p>   |
| 2 学校経営ビジョン   |
| <p>① 教師の授業力を充実させ、全職員による児童理解に務めながら、個に応じた指導、全職員の共通理解・共通実践により、基礎学力の向上を図る。</p> <p>② 少人数・複式学級のよさを再認識すると共に、少人数であることの弱点を補強するため、他校（近隣の保・小・中・中規模校）との交流活動・合同学習を進める。</p> <p>③ 全校児童が仲良く一つになるような学習や季節を感じる遊びの場を設定することで、児童一人一人に学校や地域での楽しさを味わわせ、郷土への愛着を培う。</p> <p>④ 全校剣道・生徒指導・教育相談等を通して児童理解に努めると共に、保護者・地域の声 を指導に生かし、児童によりよい生活習慣を身につけさせる。</p> |

※評価（達成度）

A(十分達成している) B(おおむね達成している) C(やや不十分である) D(不十分である)

| 3 本年度の重点目標  | 4 前年度の成果と課題   |
|---|---|
| <p>学校教育目標『郷土を愛し、豊かでたくましい心と体で、いきいきと学ぶ東部っ子の育成』を目指して、小規模小集団の中でも、郷土を愛し、心豊かで心身共にたくましい児童の育成を図っていく。そのため以下のような重点項目に力を入れて取り組んでいく。</p> <p>(1) きめ細やかな情報提供と密な交換、保護者・地域等との連携や交流の充実・ 保護者や地域との連携・協働により、さらに子どもを中心に据えた学校づくりをする。</p> <p>(2) 子どもたちの望ましい学習習慣や生活の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサルデザイン化した学習環境づくりと、だれもが「わかる・できる」授業づくりの実現をめざす。</li> <li>生活のやくそく『4つのあ』のあいさつ・あんぜん・ありがとう・あとかたづけの指導の徹底を更に推進する。</li> </ul> <p>(3) 山村留学制度の充実と推進、協働による連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者・地域・学校が連携し、生活や学習、行事・体験活動等を通して、児童の健全育成を図る。</li> </ul> <p>(4) 校内研究の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究主題「主体的にいきいきと生きるたくましい児童の育成」～きめ細かな児童理解とソーシャルスキルの技法を取り入れながら～をめざし、特に今年度は、身につけさせたい力を明確にし、活用する場として行事等の教育活動全般との関連を意識しながら研究を深める。</li> </ul> <p>(5) ICTを活用した教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習にICTを活用することで、学習意欲を高めたり、基礎学力の向上を図ったりする。また、一人学びを活性化することで、自立した学習を促す。デジタル教科書、デジタルコンテンツを活用し、「わかる・できる」授業づくりの実現をめざす。</li> </ul> <p>(6) ふるさと体験活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>富士町や佐賀市の豊かな自然環境や社会環境を生かした行事や教育活動、農業や地域地場産業の体験を通して、ふるさとのよさにふれさせるとともに、キャリア教育を推進する。また、学校と地域が一体となって取り組む地域行事や山村留学関係行事を通して市民性を育んでいく。</li> </ul> <p>(7) 武道（剣道）教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>規律を重んじ、礼儀正しく人と接する心を育て、日常生活に活かす。</li> <li>これまでの伝統を継承し、剣道の3つ誓い「礼儀正しくします。真剣にします。自分に負けません。」のもと、武道に慣れ親しむ。</li> </ul> <p>(8) 「働き方改革」への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員1人1人の勤務のあり方、各種行事や運営のあり方、育友会との連携のあり方について見直しを行っていく。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>本年度、学校運営や教育活動は昨年度に比べても良好と言える。しかし、何点か課題もある。本年度の課題を改善し、成果を更にあげるためには、次年度当初に今年度の成果や課題を確認しながら、全職員で検討を行い、「平成30年度学校評価計画」を作成する。また、保護者や地域の意見や要望を取り入れるために「学校行事」ごとに必ず「行事アンケート」を実施する。その意見や要望を全職員で話し合い改善を考え、手立てを講じる。 また、本年度に「B」と評価した項目については下記のような改善策（取組）を行う。</li> <li>①「読書活動推進」については、色々な分類の本を児童が読むような手立てやイベントを考える。また、保護者との連携を図って、読書活動の量や質を高める。</li> <li>②「教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施」は、情報セキュリティや情報モラルについて教育活動の中で機会を捉えて指導していく。また、家庭との連携も図る。</li> <li>③「基本的な生活習慣・学習習慣の育成」については、毎日児童自らに点検させながら意識づけを行う。また、できたことを取り上げて褒めたり、家庭との連携強化を図ったりする。</li> <li>④「中山間地域近隣地域保小中との連携推進」については、保育体験や各学校教諭間の情報交換等の時間確保に努め、交流を深める。</li> <li>⑤「心の教育」は、教科化を見据え、「ふれあい道徳」の授業前に保護者に学習内容を更に詳細に連絡する。また、研修を行い、評価の仕方をきちんと保護者に説明できるようにする。</li> <li>⑥「教職員の服務規律の保持に対する意識向上」については、平日頃の研修や指導をきめ細かにを行い、教職員の服務規律に対する意識を高める。また、各種の専門家を招いての研修会の質を高める。</li> <li>⑦「職員の危機管理の意識向上と危機管理体制の整備の充実」については、危機管理マニュアルの内容を検討し実効性のあるものに改訂する。必ず、専門家を招いての火災等の避難訓練等を行い、指導や助言を受ける。また、訓練実施に向けて、教職員の話し合いや打ち合わせを入念に行う。</li> </ul> |

| 4 目標・評価                                  |                         |                    |  |                         |   |     |  |   |
|--|-------------------------|--------------------|--|-------------------------|---|-----|--|---|
| ① あらゆる場面で自信を持って自己表現できる確かな学力を身につけた児童を育てる。 |                         |                    |  |                         |   |     |  |   |
| 領域                                       | 評価項目                    | 評価の観点<br>(具体的評価項目) | 具体的目標  | 担当                      | 具体的方策   | 達成度 | 成果と課題（左記の理由）   | 具体的な改善策・向上策   |
| 学校運営                                     | ○教員の資質向上                | 授業力の向上             | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の授業を振り返り、指導技能の向上に努める。</li> <li>校内研究を通して学習過程の在り方を明確にする。</li> <li>全員研究授業を1回以上行う。</li> <li>児童理解に努め、個に応じた授業づくりをする。</li> </ul> | 教頭<br>研究主任<br>(柴戸)      | <ul style="list-style-type: none"> <li>校内研究で全員授業を行う。目的を明確にしたソーシャルスキルトレーニングを取り入れた授業を実施する。事後の研究会の中で検証し合い、授業力を高める。</li> <li>講師を招聘し、研究会を充実したものにする。</li> <li>各種研修会への参加を奨励する。</li> <li>ユニバーサルデザインに基づいた全学級共通の落ち着いた教室環境をデザインする。</li> </ul>  | A   | <ul style="list-style-type: none"> <li>全員がソーシャルスキルトレーニングを取り入れて研究授業を行うことができ、授業づくりについて共通理解を図ることができた。教師の授業力もアップさせることができた。</li> <li>子ども一人ひとりの状況を担任がしっかりと把握し指導にあたったので子ども達も落ち着いた雰囲気の中で安心して学習を進めることができた。</li> </ul>   | ユニバーサルデザインに基づいた教室環境づくりは、もう少し研修を深め共通理解を図る必要がある。  |
|  | ●業務改善・教職員の働き方改革の推進      | 学校運営組織力の向上         | <ul style="list-style-type: none"> <li>小規模校ならではの、教職員1人1人の分掌事務負担軽減のために、計画的業務の遂行・業務の分担・効率的な業務遂行を常に意識する。</li> <li>各種行事や運営のあり方、育友会活動との連携のあり方について見直しを行っていく。</li> </ul>  | 教頭                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>蓄積されたこれまでのデータを活用し、職員会議等の資料を計画的に作成する。</li> <li>業務の数よりも質から、業務の分担を行っていく。さらに、管理職が中心となり、お互いに声を掛けられるような雰囲気作りをする。</li> <li>地域行事などへの参加は、本校の地域の特長性により参加することになるが、負担感を持たないようなローテーションを組む等の工夫をする。</li> </ul>  | B   | <ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議等で提案された内容を時間を使って議論すべき内容と簡単な共通理解で済む内容におおむね分け会議等を行うことで、時間短縮につながった。</li> <li>文書事務の平均化により、業務量の大小が減ってきた。出張に関しても、一人の教員に負担がかからないように平均化してきた。また、管理職も出れる場合は、学級担任にかわり出張ができるようになった。</li> <li>本校教育や地域の特長性から、地域行事への参加を少しずつルーティンションをしながら、誰かが負担感を感じないようにした。しかし、まだまだ十日の出事が多い。</li> </ul> | 職員会議等の提案の中には、例年どおりのいうのがあるので、特に議論が必要がないものは、それぞれ資料を見る程度にする。また、ペーパーレスの体制も整えていきたい。<br>職員数が少ない現状での学級担任2人程が出張となると学級経営上厳しい。小規模校ならではの出張について、市教委にも具申していきたい。<br>職員の地域行事参加については、保護者や地域の方々を理解していただくよう、今後管理職から意見していくべきだと考える。 |
| 教育活動                                     | ●学力の向上                  | 個に応じたきめ細かな指導の充実    | <ul style="list-style-type: none"> <li>国語・算数・理科・社会などの学習においては、可能な限り複式解消を図った授業を行う。</li> <li>「井原山チャレンジ」で全員90点以上をめざす。</li> <li>家庭学習を充実させるように家庭への啓発を図る。</li> </ul>      | 学力向上コーディネーター<br>(柴戸)    | <ul style="list-style-type: none"> <li>教務主任等の級外が学習支援に入り、学年別指導を実施する。</li> <li>すくすくタイムを有効に活用し、繰り返し学習を行うことで、学習内容の定着を図る。</li> <li>毎日の家庭学習についても個に応じた課題を出し、日常的に丁寧な対応を行う。加えて、自主学習を奨励し、手立てを講じる。</li> <li>保護者会で学期に1回家庭学習について話題に挙げる。</li> <li>県の学習状況調査やCRT学力検査の結果の考察を行い、指導に生かす。</li> <li>自分の考えを書いたり説明したりする、ノート指導の手立てを工夫する。</li> </ul> | A   | <ul style="list-style-type: none"> <li>県の学習状況調査やCRT学力検査の結果の考察を行い、本校児童に必要な手立てを考え、教員で共通理解を図ることができた。調べたりまとめたり考えを伝え合ったりする活動を多く取り入れ、それにより考えを広めたり深めたりすることができた。</li> <li>保護者会で学期に1回、家庭学習の大切さについて話をしたり県の学習状況調査の結果と今後の対策を説明したりすることができた。</li> <li>上手な自学ノートを掲示する「花丸ノートコーナー」を設置することができた。</li> </ul>                            | 来年度も複式学級の中で、児童自身が「主体的に学ぶ」学習指導や学びの手順がわかるような学習の定着について、研修を深めていく必要がある。<br>1年生から6年生まで、系統立てたノート指導について教員で共通理解を図り、継続した指導をする。  |
|  |                         | 読書活動の推進            | <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の100冊以上(おすすめの本を含む) 読書量を目指す。児童の達成率100%をめざす。</li> <li>読書のジャンルを広げ、質の向上をめざす。</li> </ul>                                       | 図書主任<br>図書館司書<br>(富崎高園) | <ul style="list-style-type: none"> <li>毎週月曜日や朝活動のない日に職員も児童も一緒に取り組む読書タイムを実施する。</li> <li>毎週月曜日に朝読書・読み語り（ボランティア）を実施する。</li> <li>多読者の紹介（図書館だより）・表彰をする。</li> <li>図書館祭り・各図書館系募集等を利用して全分類の図書の貸し出しができるような取り組みを行う。</li> <li>学年に応じた「おすすめの本」を紹介し、読書の質の向上を図る。</li> </ul>  | B   | <ul style="list-style-type: none"> <li>学期ごとに読書量を確認したことで、100冊読書をほとんどの児童が達成できた。</li> <li>図書館祭りなどのイベントを行うことで、児童の読書に対する関心が高まり、期間中の貸し出し数も増えた。</li> <li>ジャンルの幅も広がってきてはいるが、まだ個人差が見受けられる。児童自らが様々な分類の本に興味を持つことができるような環境や手立てが必要だと考える。</li> </ul>   | 児童自らが様々な分類の本に興味を持つことができるような環境整備やイベントの実施。保護者との連携を図り、児童の読書活動を推進していく。  |
|  | ○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施 | 電子黒板やデジタル教材の活用     | <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教科書等を利用した教材提示を行い、児童の興味関心や理解を高める授業を実践する。</li> <li>全学級で情報モラルの授業を実践する。</li> </ul>  | 情報教育担当<br>(大野教頭)        | <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT支援員の来校に合わせて、ICT利活用教育に係る職員研修を実施し、職員の指導技術の向上を図る。</li> <li>情報モラルに係る講師を招聘し研修会を実施し、職員の知見の向上を図る。</li> </ul>   | B   | <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT支援員の研修会や日常における助言により、より電子黒板の使用が広がったり深まったりした。しかし、自作教材を作成しての学校の特色に応じた学習活動は展開できなかった。</li> <li>情報モラルについては、担任による指導で主に行っていた。スマホ等の普及を考えると時代にあった情報収集を職員がすべきと考えた。</li> </ul>   | ICT担当とICT支援員が意見を交換しながら、適切な自作教材の作成法や他校とのネット通信等を進めていかなければならないと考えている。<br>来年度は、保護者を交えた「情報化社会の危機」について議論する場を設けたい。また、児童には適切な講師から、だれもが陥るかもしれないネット社会の危険について指導を受けさせるようにしたい。   |

|                   |                     |   |                       |   |   |   |   |
|-------------------|---------------------|---|-----------------------|---|---|---|---|
| ○小学校低学年の学習環境の改善充実 | 基本的な生活習慣・学習習慣の育成    | ・家庭と連携して、基本的な生活習慣を身につけさせる。<br>・家庭と連携して、宿題点検を徹底し、家庭学習の定着を図る。 | 低学年担任<br>(大野)<br>(柴戸) | ・学校で指導したことを通信や連絡帳等で家庭に連絡し、家庭と学校とで基本的な生活習慣をふり返ることができるようにする。<br>・音読計算カードを配布し、家庭と学校とで毎日の宿題の点検を徹底する。            | A | ・家庭と連絡を密に取り合い、児童の実態に応じて基本的な生活習慣の確立を目指すことができた。<br>・音読・計算カードを家庭と学校とで毎日点検した。がんばりを本人だけでなく家庭にも伝え励ましてもらったことで、家庭学習の習慣が確立できた。 | ・家庭と連携して情報を収集し、実際の児童の頑張りや道徳や学級活動等の授業にも取り入れ称賛していく。 |
| ○幼保小中連携           | 中山間地域の近隣の保小中との連携の推進 | ・近隣の保育園・小学校と每学期交流授業を行う。<br>・6年生の中学校進学に対する不安解消のための活動を実施する。   | 低学年担任<br>(大野)<br>(柴戸) | ・北部保育園と行事を中心に交流活動を年3回以上行う。<br>・6年生が進学する中学校を訪問し、不安解消に努める。<br>・鬼火小屋作りや鬼火焚きなどの地域の伝統的な行事に近隣の保育園児・小学生を招待し交流を深める。 | B | ・北部保育園との連絡協議会をもつことができた。<br>・北部保育園と行事を中心に年3回交流活動を行うことができた。鬼火小屋での交流では、児童も意欲的に取り組み楽しく過ごすことができた。上級生としての意欲が高まった。           | ・保育体験や教諭間の情報交換等の時間確保が必要である。                       |

② 規律正しい生活・全校剣道を通して心身ともに充実した児童を育てる。

| 領域    | 評価項目         | 評価の観点<br>(具体的評価項目)   | 具体的目標   | 担当  | 具体的方策   | 達成度   | 成果と課題(左記の理由)   | 具体的な改善策・向上策   |
|-------|--------------|--|---|---|---|---|--|---|
| 教育活動  | ●健康・体づくり     | 全校剣道の充実  | ・剣道を通して、自分の体力づくりに関心を持たせ、基本的な生活習慣の大切さを学ばせる。<br>・剣道を通して、礼節を重んじる態度を身につけさせる。  | 剣道担当<br>(富崎大野、<br>藤崎、<br>柴戸)  | ・剣道ノートを利用して、自分の目標や稽古について振り返らせ、武道に対する意欲を高める。<br>・生活の場で、礼儀正しい態度や基本的な生活習慣を守って過ごせたことを賞賛する。  | B   | ・剣道ノートの活用が不十分であった。<br>・礼儀正しい態度や基本的な生活習慣の実践を学校生活場面においても意識させることができた。きちんと取り組んでいる児童を全体の場で称賛し、意欲高揚につなげることができた。  | ・「剣道で学ぶ」ことの意味や技術面のめあてなどを剣道ノートに記述させ、ふり返ることで、児童の自主性や成長を促したい。<br>・今後とも基本的な生活習慣育成、精神力強化のため、全校剣道を継続していきたい。 |
|       |              | 望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成  | ・朝食の内容・重要性について、学年に応じて児童に考えさせ、実践させる。<br>・学校給食を活用し、健全な食生活と食事マナーの習得に取り組む。給食を好き嫌いせず、食べられる量を考えながら食べる。食事中・食後のマナーの定着を図る。 | 食育担当<br>(西)   | ・学級活動や給食週間の取組みにおいて、朝食等家庭での食生活を調査し、個に応じた適切な指導を行う。<br>・全職員による給食指導を行う。高学年が家庭科で学習した会食の仕方等、給食時間を利用して全児童に広める。<br>・好き嫌いせずに、学年に応じて食べられる量を考え食事をする。また、時間配分を考え、食事をする。          | A   | ・給食時には全職員が児童と一緒に食べ、必要に応じて食事中のマナーについて指導を行なった。<br>・栄養教諭による食育の授業を行うことで、児童が望ましい食習慣について考えるきっかけにつながった。<br>～6年生「かわことについて」、5・6年生「五大学養素」の授業を実施)<br>・ほとんどの児童が朝食を毎日食べることができている。また、給食の残食率は0%であり、自分の食べられる量を考えながら食事をするのでできている。<br>・芋苗植えや田植えなどの作物の栽培づくりを通して、食の大切さを学ぶことができた。<br>・給食週間は、児童保健委員会による給食に関する集会を行い、全児童で食について学習するとともに食への感謝の気持ちを育んだ。 | ・給食時に児童の様子を観察しながら、引き続き給食時間に食事中のマナーについて指導を行う。<br>・朝食習慣の定着を図るため、適宜保健指導を行うとともに、必要に応じて栄養教諭とともに指導を行う。      |
|       | ●心の教育        | 道徳教育の推進  | ・年1回以上、全学級でふれあい道徳の授業公開を行う。<br>・学期に1回、「命」に関する授業を行う。  | 道徳担当<br>(柴戸)  | ・「ふれあい道徳」では、生命尊重・家族愛を中心とした価値項目で授業を実践し、よりよい生き方を保護者と一緒に考えさせる。<br>・各教材の道徳的価値から、目標を設定し、各内容が網羅されたバランスのとれた年間計画を作成する。<br>・児童個々の心の動きを記録し、道徳的成長を見取る。                         | B   | ・道徳の中で学んだ価値を、学級指導等の時間を使って実践することにより、自己肯定感・自己有用感を高める学級経営を行うことができた。<br>・山村留学のため里親制度がある本校では、学校生活だけでなく、家庭での生活の中で生きるとして道徳指導が必要である。<br>・道徳科の評価の研修を実施することができた。<br>・道徳の教科化について保護者に説明することができた。   | ・「ふれあい道徳」の授業前に保護者に学習内容を更に詳しく連絡する。<br>・道徳の授業づくりについて教師間で情報交換をする必要がある。                                   |
|       | ●いじめの問題への対応  | 人権教育の充実  | ・児童一人ひとりが大切にされる学校・学級をめざす。<br>・「いじめ0」の継続をめざす。<br>・全職員で取り組み、児童の人権意識を高める。  | 人権・同和教育担当<br>(柴戸)   | ・月に1回人権教室を実施する。(学期に1回、校長・教頭・養護教諭も行う。)<br>・毎学期、全校での人権学習・集会を実施する。<br>・保健の「いのちの教育」とタイアップした授業を実施する。<br>・12月に全校人権集会を実施する。<br>・月1回の「心のアンケート」を活用し、各児童の実態に応じたより具体的な指導を実践する。 | A   | ・毎月の人権教室(輪番で全職員行う)や7月の全校平和集会、「いのちの教育」とタイアップした授業の実践することができた。全職員が工夫して子ども達の心に響く人権学習を実施することができた。<br>・「心のアンケート」により児童の様子を把握したり、職員間で情報交換をしたりして支援や指導を行うことができた。<br>・ソーシャルスキルトレーニングを取り入れ相手を大切にすることを育むことができた。<br>・職員室の会話の中で日常的に、児童の様子について話題にし、共通理解を深めることができた。   | ・児童が主体となって取り組む「人権集会」を実施し、人権について自分たちの課題として捉えさせ、深く考えさせることが必要である。  |
| ○生徒指導 | きめ細かな個別指導の充実 | ・生活の約束『4つのあ』(あいさつ・あんぜん・ありがと・あとかたづけ)活動の定着を図る。<br>→『4つのあ』を進んでできる児童が100%を達成する。<br>・基本的な行動様式の定着を図り、気になる子どもに対して全職員で支援する。<br>・安全教育の指導の徹底を図る。 | 生徒指導担当<br>(大野)<br>(教頭)  | ・『4つのあ』をベースにして、学習や生活場面でがんばっている児童をスターシールなどを活用してほめる。全校の場でも紹介する。<br>・教育相談・生徒指導協議会を原則毎月開き、全職員で共通理解を図り、児童対応をする。<br>・開発的生徒指導・教育相談を心がけ、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、自己肯定感や自己有用感を高める。<br>・全校帰りの会において、交通安全や防犯意識を高める全体指導を行う。 | B   | ・どの児童も学習や生活のきまりを守ろうと努力している。がんばった証としてスターシールをもらおうと、さらにやる気をもって取り組むことができた。<br>・SCによる児童の見取りを参考にしながら、児童個々に目と心を配る支援ができた。<br>・研究途中ではあるが、ソーシャルスキルの効果がいろいろな学習や生活の場面で表れてきた。<br>・交通事故や犯罪に巻き込まれる等のことは、一度もなかった。 | ・職員間での情報交換を何気ない日常の中でおこなう事で、さらに児童の理解を進めていきたい。<br>・ソーシャルスキル等で獲得した知識やよりよき行動を児童自身が強く認識できるような場の設定や賞賛のあり方を今後探していきたい。<br>・事故や事故につながるような事案は起こらなかったが、さらに児童自身の危機回避能力等を高めていくため、学級活動や全校帰りの会等で、繰り返し指導していきたい。  |   |

| ③ 地域から信頼され、地域と連携した豊かな体験活動が充実した学校づくりを行う。 |             |                    |  |                |   |     |  |  |
|---|-------------|--------------------|--|----------------|---|-----|--|--|
| 領域                                      | 評価項目        | 評価の観点<br>(具体的評価項目) | 具体的目標  | 担当             | 具体的方策   | 達成度 | 成果と課題（左記の理由）   | 具体的な改善策・向上策  |
| 学校運営                                    | ○学校経営方針     | 本年度の重点目標の周知        | ・教職員・児童・保護者の周知率を8割以上とする。   | (校長)           | ・職員会議、全校集会等で説明する。<br>・学校便り、山村留学総会・育友会総会などで周知し、具体的取組みを説明する。<br>・地域参加の各行事において周知を図る。   | A   | ・学校経営方針について、育友会や総会・山村留学総会などで年度当初に保護者に説明し、周知を図った。<br>・毎月発行する学校便りにも毎回表示すると共に、方針に沿った取組みの紹介をし、取組みへの理解を図った。<br>・児童に対しては、全校朝会でも、具体的な例を示しながら、目指す子ども像に近づくよう周知を図った。                     | ・学校運営方針は今後も大きく変えることなく推進していくので、今後も継続的な周知を図っていきたい。<br>・家庭での状況を保護者と話し合いながら、学校と家庭で協力しながらさらに推進していきたい。 |
|   | ○開かれた学校作り   | 開かれた学校作りの推進        | ・学級だより、学校だより、学校ホームページ等による情報発信を拡大する。<br>・保護者だけでなく、地域の方も含めた学校行事を充実させる。 | (校長)<br>(教頭)   | ・学校だよりは、地域の全世帯へ、学校便りは保護者や実親、里親定期的に配布したり配送したりすることを引き続き継続していく。<br>・学校ホームページは、子ども達の様子を中心に週に2～3回は更新する。<br>・実親にも各種案内や子どもの様子がわかる写真等を郵送する。<br>・学校の活動を、佐賀市報、テレビ、新聞等のメディアを活用し、地域の方々の学校行事への参加を促す。 | A   | ・学校情報は、学級便り、学校便り、HP等で随時発信をしてきたことで、保護者（留学生実親）や地域の方々に学校の教育活動を知っていただくことができた。<br>・留学生実親への写真入学便りは好評であったが、随時、郵送するなど手間と郵送料がかかった。  | ・特に地域や留学生実親とも、しっかりと結びつきを持っていきたいのでこれまでの取組みを続けたい。郵送に関しては、メールで子どもの様子を伝える等、対策を講じていくのもよいと考える。         |
| 学校運営                                    | ○山村留学の継続・発展 | 山村留学の継続・発展         | ・保護者・地域と協力して山村留学の継続・発展ができる学校をめざす。                                    | 山村留学担当<br>(教頭) | ・山村留学実行委員会と協力して、福岡市役所・佐賀市役所・佐賀市教育委員会・佐賀県内教育事務所・佐賀県立小学校に山村留学パンフレット等を配布する等の広告活動を行う。<br>・地域行事等を保護者・育友会・山村留学育成会が一体となって実施する。<br>・学校HPにおいて山村留学の成果や自然に恵まれた学校の教育活動を積極的にPRする。                    | A   | ・例年通りの広報活動ができ、8月の短期留学は多くの参加希望を頂いた。長期留学に関してもお問い合わせが多く、山村留学の必要性を強く感じた。それは、職員のモチベーションや地域の活性化にもつながっていた。<br>・この学校でしかできない行事が保護者や山村留学実行委員の協力により取組むことができている。これは、本校児童の健やかな成長に大きく関与している。 | ・多くの方々に山村留学について興味を持たれているが、保護者や職員の負担は確実にある。規模を縮小していくか、他に協力者を求めるか、保護者と学校が今後、話し合いを重ねていきたい。          |

| 本年度の重点目標に含まれない共通評価項目 |          |                           |  |              |  |     |   |  |
|----------------------|----------|---------------------------|--|--------------|--|-----|---|--|
| 領域                   | 評価項目     | 評価の観点<br>(具体的評価項目)        | 具体的目標  | 担当           | 具体的方策  | 達成度 | 成果と課題（左記の理由）  | 具体的な改善策・向上策  |
| 学校運営                 | ○教員の資質向上 | 教職員の服務規律の保持に対する意識向上       | ・教職員の服務規律の保持に対する意識を向上する。                     | (教頭)         | ・職員会議や職員連絡会では、必ず、服務規律について提示し、常に教職員に意識を強く持たせる。<br>・通知文や新聞記事等から服務規律に関する情報を教職員に提供し、管理職より補足説明をする。                                    | B   | ・職員会議や職員連絡会で通知文や事例等を読み合わせたり、「東部小交通安全の誓い」を再三共通理解することで、服務規律保持への意識は高まった。<br>・特に職員による規律違反や職員の信用を失墜させるような事案は起こらなかった。しかし、思わぬところで規律違反や信用失墜行為が起りうることは心に留めておく。                         | ・今後も、専門家などを招いての研修や意識向上により、職員のモラルやコンプライアンスを更に高めていきたい。   |
|                      | ○危機管理    | 職員の危機管理の意識向上と危機管理体制の整備の充実 | ・危機管理マニュアルをもとに不審者侵入を始めとする避難訓練で全員が自分の役割を遂行する。 | (教頭)<br>(富崎) | ・危機管理マニュアルの内容を実用性のあるものにするため、全職員で改定を行う。<br>・年3回以上、避難訓練（不審者侵入・地震・火災）を行う。<br>・事件や事故についての危機意識を更に高めるため、職員連絡会や全校帰りの会等で意識を高めていく取り組みを行う。 | B   | ・危機管理マニュアルについては、完成前に職員にしっかりと理解もらい、作成していった。職員が常に目にするように危機に関しての対応を職員室に掲示していたので、職員の危機に対する意識は高まった。<br>・警察署員を招いての不審者対応や消防署員から指導を受けながらの火災避難訓練は計画通りできたので、児童にも危機にあったときの対応は学習することができた。 | ・職員及び児童の危機意識には、どれだけやっても十分とは思わないようにする。日常の場面においても職員は、児童に声かけを怠り無く行うよう指導する。<br>・次年度も、危機管理マニュアルの読み合わせや修正を全職員で行うようにする。更なる危機管理への意識を高めていきたい。 |

| 5 本年度のまとめ・次年度の課題  |
|---|
| <p>①「あらゆる場面で自信を持って自己表現できる確かな学力を身につけた児童を育てる。」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校研究の柱となったソーシャルスキルトレーニング（以下SST）を取り入れていくことで、共に学び支え合う等の能力を向上させることができた。それは、授業中の児童の学習への意欲的な取り組みや学習状況調査の好結果からも言える。課題としては、読書習慣や読書範囲の広がりや個人差や情報モラル教育を含めたICT利活用のさらなる充実である。そのためには、児童が様々なジャンルの本に興味を持ち、読書後、読書で得た知識等が活用できるような場を設定していきたい。ICT利活用に関しては、SSTで力をつけた技能を使い、テレビ会議などを積極的に行う等、対策を講じたい。</li> <li>・学力向上のための授業力向上には教材開発や教材準備の時間が必要である。来年度も行事のスリム化や話し合いの時間の短縮等を行い、授業の準備の時間や児童とのふれあいの時間が増やせるようにしていきたい。</li> </ul> <p>②「規則正しい生活・全校剣道を通して心身ともに充実した児童を育てる。」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『特別の教科 道徳』についてのその指導計画や評価等を職員で研修を行い、共通理解はできた。また、人権教室や相手の心を大切にするとSSTの実践により、豊かな心の育成の一助となった。日常の観察や「心のアンケート」で、児童の今の様子や心の悩みについて理解を深め、適切な対応ができた。今後も『特別な教科 道徳』では、普段の授業での改善策等を講じるための場を設定していきたい。剣道については、本来の『剣道で学ぶ』意味について児童自らが考えていくような方策を練りたい。</li> </ul> <p>③「地域から信頼され、地域と連携した豊かな体験活動が充実した学校づくりを行う。」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営方針や重点目標さらに取り組みによる児童の様子を学校便り、学級だより、学校HP等で積極的に発信してきた。また、山村留学に関する行事を含めて、保護者や地域との連携はおおむね良好であった。しかし、保護者や職員の他学校と比べても大きな負担はある。今後も保護者や地域（特に山村留学実行員会）と話し合いを進めながら、行事の縮小化や協力者を開拓していく等の対策を考えていかなければならないと考える。</li> </ul> <p>④「本年度の重点目標に含まれない共通評価項目」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・服務規律や校内で想定できる危機に関しては、随時職員との共通理解を行ってきたため、服務規律保持や危機への対応については職員の意識は高まっている。しかし、職員及び児童の危機意識には、どれだけやったら十分だと言えない面があるので、今後も、怠りなく職員同士がお互いに声かけをしていくような職員室での雰囲気を保ちたい。</li> </ul> |